

特集

# ICTを活用し 教育現場に改革を！

フルクラウド化で「学び方改革」と「働き方改革」

1月17日(木)に行われた「2019日本ICT教育アワード」で、多久市は総務大臣賞に輝きました。

このアワードは、ICT<sup>\*1</sup>教育の推進に積極的な自治体の首長が中心となって設立された「全国ICT教育首長協議会」が主催する「全国ICT教育首長サミット」で、先進的・特徴的な取り組みを実施する地方自治体等を顕彰する目的で実施されています。今回、全国的にも評価された、多久市のICT教育の取り組みを紹介します。

## 教育現場を変革

多久市では、児童・生徒の教育を第一に考え、小中一貫教育の導入、義務教育学校開校など、教育事業に力を入れてきました。

2020年から全国の小学校課程で始まるプログラミング教育を見据え、県内でも先駆けて電子黒板を導入しました。2016年からはICT教育の充実のためにタブレット端末など、ICTを活用した授業を行なってきました。

学校のICT環境整備とよりよいセキュリティ対策のために、昨年は各学校に設置していたサーバーをなくし、フルクラウド<sup>\*2</sup>上で3校のデータを管理ができるよう、システムを大きく改革しました。

これは全国でも数少ない最先端の取り組みであるのももちろん、県内でも初の試みでした。フルクラウドに変えることで、利便性や安全性が向上し、さらに教職員の働き方も変わります。

「2019日本ICT教育アワード」では、児童生徒の学び方、教職員の働き方改革となる取り組みが高く評価され、総務大臣賞を受賞しました。



▲日本ICT教育アワードでの授賞式の様子（総務省 安藤英作さん（左）、横尾市長（中央）、田原教育長（右））

## 児童・生徒の学び方改革で広がる可能性

現在の私たちは、携帯端末を活用し、知りたい情報や調べたいことを瞬時に検索することができるようになりました。また、さまざまな情報がSNS等で配信されており、便利なアプリケーションソフトなどのICT技術が進歩し続けます。

多久市の児童・生徒は主体的に考え、周囲の声にも耳を傾けながらさらに考えを深める「協働学習」に取り組んでいます。その児童・生徒が、このような技術をどう活用すればいいかを身に付けるだけでなく、日々の学習にどう活かすか、未来への可能性が広がります。

今年2月には市内3校の全教室にWi-Fi<sup>\*3</sup>環境を整備し、今後、3校はもちろん、海外と繋がることも可能となります。



▲バスケットボールの試合中にパスやシュートの数をタブレット端末に記録し、データ化した数字で作戦会議に活かす

\*1 ICTとは…Information and Communication Technology 「情報通信技術」の略で、パソコンやタブレットなどコンピューター技術の活用のこと

\*2 フルクラウドとは…仮想化技術を用いて、サーバー構築や大規模データの保管を行うサービスのことを言い、全てのデータ管理をクラウドで行うこと

\*3 Wi-Fi(ワイファイ)とは…パソコンやスマートフォン、タブレットなどのインターネット端末を無線でウェブに接続させる設備